

# ほん屋

2016(平成28)年11月  
4号店

店主:学生図書委員1年  
(西村・比嘉・伊佐・親富祖)

中間テストも終わり、これから楽しい行事が盛りだくさん！  
スポーツフェスタに3年生は研修旅行、少し待てば冬休み。  
スポーツのお供に、旅行のお供に、ミカン(正月)のお供に読書はいかがでしょう？  
そんな気持ちで4号店です。

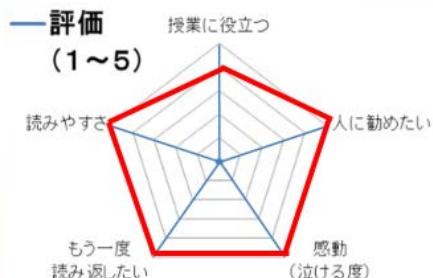
※この発刊紙は、学生が作るニュース(図書館発行)です。

“ほん屋” of the students, by the students, for the students.

## 『ブッタとシッタカブッタ シリーズ』 (小泉吉宏)



生物資源工学科  
教授 平山 けい先生



図書館にはこの3冊以外に、  
他3冊あります！



まず、この本は宗教の本ではありません。「自分」や「心」、「ものの見方」について書かれている本です。4コマ漫画で人生の歩み方がつづられています。私達同様に様々な悩みを抱えた仔ブタが生き方の道案内をしてくれます。これを読んでいると心の筋肉がほぐれてやわらかくなり「よし！！」という気持ちが湧いてきます。8シリーズあります。悩める時も、そうでないときも是非とも手に取ってみてください。



本科1年  
メディア情報工学科  
家村 一摩さん

## 『本格学習Java入門』 (佐々木整)



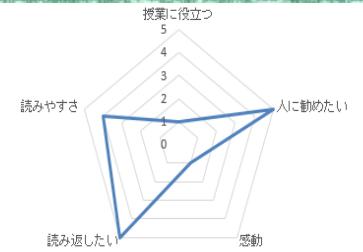
この本は、3億のデバイスで走る(?)プログラミング言語、Javaを初心者にもわかりやすく説明している入門書です。図解などが少ない分、プログラミングそのものを初めて触る方には少し難しいかもしれませんが、実行結果などがすべてのコードに載っているため、テストがとてもしやすいです。

私がこの本を選んだ理由は、他の参考書ではあまり取り上げられていないネットワークとGUIの使い方が説明されているからです。この本を使えば、すぐにでもネットワークを用いたアプリケーションを作れるようになるでしょう。

## 『グローバルズムという病』 (平川 克美)



総合科学科  
准教授 森田 正亮先生



「グローバル」という言葉を目にしない日はないとあってよいくらい、この言葉は頻繁に出てくるようになった。教育機関にいると「グローバル人材育成」等という言葉によく出くわす。しかし、この言葉に胡散臭さを感じる人も少なくないだろう。本書は、我々が感じるその胡散臭さに鋭く切り込み、その正体を明らかにしているものである。例えば、日本人の英語コンプレックスのせいか、「グローバル」と聞くとすぐに「英語」と短絡的に考えてしまいがちである。

本校の学生たちの英語力の低さは言うまでもないし、彼らの英語習得の意欲をそぐつもりもないのだが、そもそも「英語ができればグローバル人材」ではないはずだ。「グローバル」云々は別にして、学校はそもそも学生を育てる場である。数学とか物理とか難しい科目であっても、最低限必要な知識と考え方をどうにかして身につけてもらう場である。母国語でさえ理解が難しいものを「英語で授業」など愚の骨頂であるという(当たり前の)ことを、改めて気づかせてくれる書である。

## コラム No.1 (多読編)

本科5年 T.Kさん

多読学習は文学的諸教養の向上にも役立つ。ここで敢えて挑戦的な内容の本も示す。ラダーシリーズには、日本語本の名著の英訳もあり言語間での表現の比較対象になる。また、社会問題等について書かれた本もある。PYRにはシェイクスピアの名著の数々のような古典から、映画化され記憶に新しい本もある。諸教養は他文化理解につながり、これらを含みリベラルアーツはグローバル化の風潮に適応することに役立つ。

✓ 館内は飲食禁止です！

最近、館内飲食、飲食物の持ち込みが増えて  
います。館内は飲食禁止となっていますので、  
気をつけてください！

図書館のマナーを守って  
気持ちよく利用しましょう！



店主のつぶやき

中間テストお疲れ様です。  
単位、取れるといいですね・・・  
テストが終わったからと言って、  
気を抜かずにかんばりましょう。  
See you next issue!